

はじめに

我が国の高齢化は世界に例を見ない速度で進んでおり、東京都の高齢者人口(65歳以上)は平成27年には約301万人、高齢化率は約23%となっています。

今後も高齢者人口は増加が続き、東京都では、令和7年までに、高齢者は326万人に増加し、そのうち75歳以上の後期高齢者は191万人となると推測されています。

高齢化が進むにつれ、亡くられる高齢者の方も増えており、平成30年のデータでは東京都の死亡者数は年間約12万人となっていますが、そのうち約7割が病院で死亡しています。一方で、自宅や介護施設など住み慣れた暮らしの場で亡くなりたいという都民は約4割いらっしゃいます。

このような中、まさに住み慣れた暮らしの場である特別養護老人ホームでは、すでに多くの施設が看取り介護に取り組まれています。これからも終の棲家として、入所されている施設で最期を迎えたいと望まれる方やご家族がますます増えていくことでしょう。

また、特別養護老人ホームでの看取りを行うためには、医師、看護師、介護士、ケアマネジャー、栄養士など、様々な職種の職員による協力が不可欠です。特に医師や看護師の医療職の方の役割は大変重要となっています。

そこで、本パンフレットは、これから本格的に看取りに取り組まれる特養の配置医師の皆様や特養の配置医師になられることをご検討されている医師の皆様に、特養における看取りについて考えていただくきっかけになればという願いをこめて作成いたしました。

本パンフレットが少しでも役立ち、「住み慣れた暮らしの場である介護施設で最期を迎えたい」と願う方々の希望に応えるための一助として活用されることを願っています。



入所から看取りまでにたどる経過

1 入所

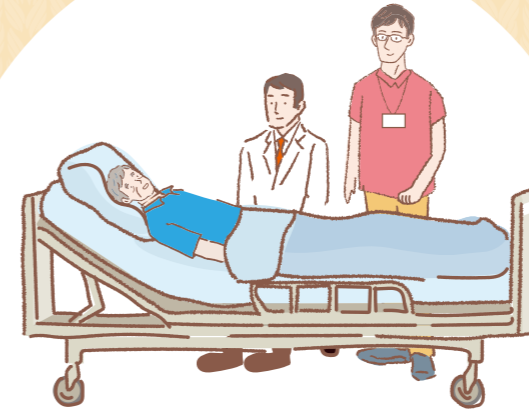


2



食べているのに
体重が減ってくる

体力が低下する



食べられなくなる

眠っている時間が長くなる

3

水分を摂れなくなる

4

呼吸の仕方が変わる
手足が冷たくなる

5

看取り

